木質バイオマス打合せ議事録（4/13）

打合せ日時　　　４月13日（火）　13時30分～15時30分

　　　場所　　　委員会室

　　　出席者　　津軽バイオマスエネルギー　　大山社長

委員会　　　　山口、柴田、滝川、下江、白井

　　　　　　　　議会事務局　　夏目

　　　　　　　　森林課　　　　古田産業振興部長、鈴木課長、山本、大西（地域おこし協力隊）

◇打合せ目的

　２月12日の打合せを受けて。津軽バイオマスエネルギーからの資料に基づく打合せ。

◇議事録（要旨）

　〇某テレビ局で放映された平川市での木質バイオマス発電の取組のＤＶＤ視聴。

〇大山社長からの話（要点）

　・平川市では計画から５年で実現。続いての岩手県花巻市、福島県田村市でも同様。

　・現在、神奈川県横須賀市で検討が始まっており、直接訪問をしている。全体で、平川市を含めて６か所に関わっている。

　・事業は、私どもが責任を持つ。行政、山主、林業関係者に損をさせることはない。発電すれば確実に収入となる仕組みが出来ている。

　・若者の仕事場として選ばれる労働条件を提供していきたい。

　・平川市では、6500ｔｆ/月の燃料が必要。現時点で4000ｔｆ/月の整備まで進んでいる。

　・検討中の横須賀市では、市内の街路樹の剪定枝（13万ｔｆ/年）が大半。隣の横浜市分などを加えれば、相当な剪定枝が集まる。現在は燃やしている。7000ｋｗぐらいを考えている。

　・バイオマス発電に15年ぐらい関わっている。キーマンが必要。特に市役所に必要。平川市、花巻市は市役所にキーマンがいた。最初に平川市で発電所を立ち上げられたのは、平川市の市長が熱心だったからである。

　・花巻市での発電所の実現は、松くい虫の被害が深刻で、その対策のためとして林野庁の後押しもあった。チップ工場は何カ所も存在していたが、供給安定化をさせるため、調整弁的役割を考え、私どもが建設した。

　・新城市周辺に、燃料となる材は十分あると考えている。

　・固定価格買取制度の認証（経済産業省のＦＩＴ認定）がなければ、事業は不可能。

　・6000ｔｆの切り出しには60名が必要。積み込み用の重機が付いたトラック（約2500万円→1/2補助制度利用可）も必要。

　・人材育成の補助金もある。2年間、200万円/年の支給。

　・林野庁の補助制度に、発電能力2000ｋｗ以下で、間伐材などを燃料とした時、電気を40円/ｋｗで売れる仕組み。40円/ｋｗであれば、黒字にはなるが、あまり魅力は出てこない。

　・津軽バイオマスエナジーの電気は、全て青森県で消費できる。消費者の電気料金は、5％くらいは安くできる。発電電力（計画は6250ｋｗ）の250ｋｗは社内で利用、残り6000ｋｗは、生協、JAなど大手を含み、全て青森県で消費。

　・Ａ（建築用）材、Ｂ（集成材用）材が売れなければ、Ｃ（チップ用）材、Ｄ（発電燃料用）材も売れない。これまでは、伐採現場でＡ・Ｂ材を選択していたが、これからは、山から全て持ち出し、集積場で選択することになる。Ｃ・Ｄ材が切り捨て間伐ということではなくなる。

　・林業の補助金のメニューはたくさんある。木材利用の仕組みができれば、補助金は出てくる。

　・集成材工場建設には、半分の補助が受けられる。

　・20年単位の皆伐は、現時点で法律により無理。何を植林するかを林野庁と交渉中。

　・50、100年材が放置されてきたが、巣がはいりＡ材としての利用はできないのが青森の現状。

　　→新城周辺では、巣は入っていないらしい。

　・山を売りたいという声が増えている。これまでも、山を買っている。

　・バイオマス発電で発生するエネルギーの27％が電気に変わっている。残りは、熱として捨てられている。この熱を、今年の秋を目標に、温室の暖房に利用することも考えている。

･６０００kwの発電所のためには、１０万tfの製材所が必要。

〇大山社長の話を受けての議論・情報共有

　・愛知県の生産量約7万ｔｆ。三河ホルツの生産量が36000ｔｆ。6000ｋｗの発電所の燃料供給は、愛知県だけではできない。

　・Ａ材（建築用材）を発電燃料に使うことに林野庁が正式には認めない。しかし、最終的に、山を守るためには、認めざるを得ないか？

　・衣浦でも木質バイオマス発電の計画がある。燃料は輸入（やし）か？

　・広域から集めるためには、輸送コストをいかに低く抑えるかが重要。

　・6000ｋｗの発電効率は27％、発電能力が下がれば効率も下がる。2000ｋｗでは10％ぐらい。

　・効率を考えれば、木質バイオマス発電よりガス化発電が優れているが、日本では技術が確立されていない。ヨーロッパでは実用化されている。日本と違う点は、燃料となるチップの品質安定性（水分量など）である。日本のチップは、乾燥状態がばらばらで、ガス化発電に適した基盤がない。研究は続いているので、将来的には実用化されると思う。

　・木質バイオマス発電の計画は全国的に進められているので、国内材を燃料とすると、色々な所で競合すると思われる。

　・固定買取り制度がなければ採算が取れないバイオマス発電は、あまり前のめりに進みすぎるのは危険ではないか？→急がず確実に足元を固めていく必要がある。